

## 研究結果

本研究は予定通りに進められてきた。日本の漢文古書における音楽史料について全面的な調査を行った。これは2008年5月の中国南京大学域外漢籍研究所や上海音楽学院中日音楽文化研究センターでの調査のほか、2008年6月から12月にかけての日本慶応義塾大学や上野学園大学日本音楽史研究所に対する調査をも含める。調査の記録は数十万字に達する。

調査によると、大陸から伝わってきた音楽は日本でよく保存され、しかも十分記録されている。その数が予測したものをはるかに超えている。閲読計画に入れた書籍のほか、数多くの非正規の古文書を発見した。例えば、上野学園大学日本音楽史研究所所蔵の手写本楽書楽譜だけでも、中国や韓国の音楽に関連する部分は一万件もある。中には竜笛、箏、琵琶、箏、三味線に関する楽書楽譜は5000件で、仏教声明資料は3000件を超えた。多くの資料は伏見宮家、綾小路家、稲葉家、窪家、豊家、松浦家、興福寺(春日大社)、四天王寺、仁和寺、醍醐寺などの旧家寺社等によって保存されてきた。

資料などに限られたため、本研究は東京都以内で行われ、他の地方を訪ねなかった。また、資料の抄録、古書の購入、写真のスキャナ、文献のコピーなど、時間のかかる仕事が多いため、資料を整理する仕事はまだ終わっていない。

既にできた研究結果として、次の四つある。

(一) 論文「<古今楽纂>と音楽文献の真偽弁別」。「文芸研究」(北京)2008年第11期、82-91ページ。[追加ファイル1]

(二) 論文「唐代音楽史研究三題」。上野学園大学日本音楽史研究所予定発表。[追加ファイル2]

(三) 「大陸音楽の日本での伝わり:漢文資料叙録」目録。[追加ファイル3]

(四) 日本音楽史料解題(未定稿)

報告者はこれから3年をかけて、集めてきた資料を全部整理し、「大陸音楽の日本での伝わり:漢文史料叙録」という本を作成し、1000ページの見込みである。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

### 口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「中國樂部史中の隋代七部樂」、王小盾、六朝樂府研究会、2009年3月7日15:00-17:30, 東京, 学士會館。
2. 「唐代の樂曲」、王小盾、專題報告、2009年3月20日14:00-16:30、東京、上野学園大学日本音楽史研究所。

### 論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「<古今楽纂>と音楽文献の真偽弁別」。「文芸研究」(北京)2008年第11期、82-91ページ
2. 「唐代音楽史研究三題」。「日本音楽史研究」2009年、上野学園大学日本音楽史研究所予定発表。

### 書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)